

## 工事説明書

### 電気温水器 屋内外設置型(通電制御型)

形名 DO-379  
DO-469  
DO-559

#### 【通電制御型】

この電気温水器は申請により、通電制御型として電気料金の割引が適用されます。  
取替えて機種変更した場合でも電力会社へ申請してください。

この機器は第二深夜電力(5時間)では使用できません。

機器を据付ける前に必ずこの工事説明書をよくお読みの上、正しく据付けてください。

この機器は浴室内には絶対に設置しないでください。

なお、この工事説明書は工事終了後、取扱説明書・保証書と共に必ずお客様にお渡しください。

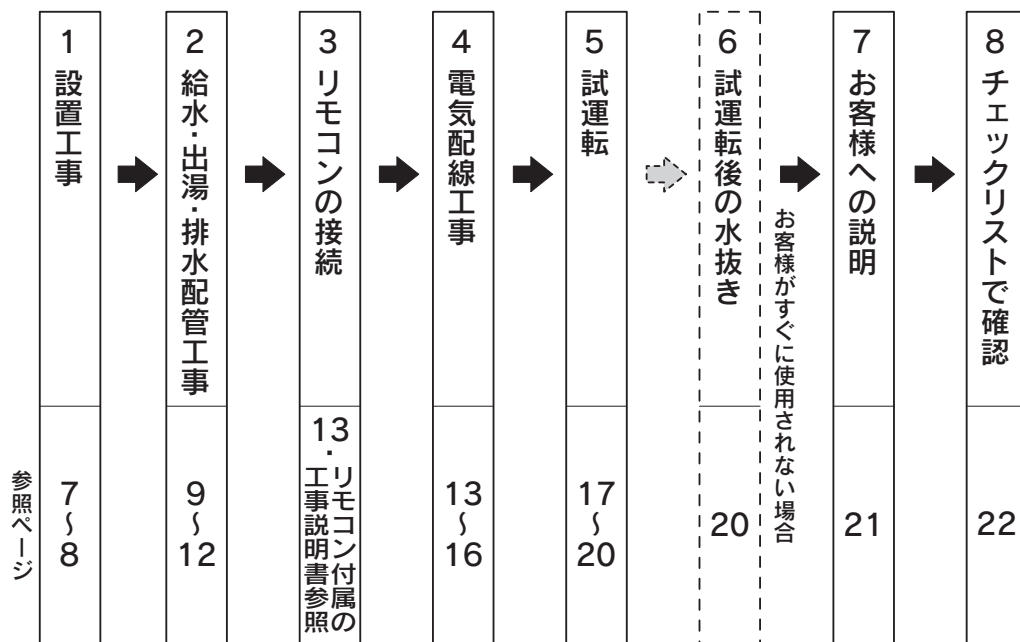
#### もくじ

工事の流れ	2
付属品の確認	2
別売部品	2
特に注意していただきたいこと	3
外形寸法図	5
設置工事	7
給水・出湯・排水配管工事	9
リモコンの接続	13
電気配線工事	13
試運転	17
試運転終了後	20
エラーコードについて	21
お客様への説明	21
チェックリスト	22

●本文中の機器のイラストはDO-559です。


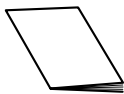
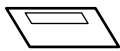
●製品改良により、本体・仕様などが説明書の内容と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

# 工事の流れ



## 付属品の確認

- 梱包されている付属品に不足がないことを確認してください。




		
取扱説明書	工事説明書	保証書

## 別売部品

- 台所リモコン (CMR-2703V)
- リモコンコード
- アース棒
- 転倒防止金具
- 水栓ソケット 20A
- インサートバルブソケット 20A
- 絶縁パイプ 20A (0.5m)
- 絶縁パイプ 20A (1m)
- 空気抜き弁
- ホッパー
- 減圧逆止弁
- 逃し弁
- ドレンエルボセット
- 真空破壊弁
- アンカーボルトセット

# 特に注意していただきたいこと










- ここに示した事項は、危害・損害の程度によって次のように分類されます。  
いずれも安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

 <b>危険</b>	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
 <b>警告</b>	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。










- 絵表示には次のような意味があります。

	一般的な禁止		一般的な危険・警告・注意		必ず行うこと		アースを接続すること
---	--------	---	--------------	---	--------	--	------------

 <b>危険</b>	
<b>浴室内に設置しない</b>	
●浴室内に設置しないでください。感電や事故の原因になります。	

 <b>警告</b>	
<b>火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事や水道工事はそれぞれ指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守ってください</b>	
<b>据付けや移動は販売店または据付業者が行ってください</b>	
●お客様ご自身で据付けをされ、不備があると火災・感電・水漏れの原因になります。	
<b>機器は丈夫な設置台(床)に設置すること</b>	
●満水時の重量に充分耐えられる丈夫な不燃材の設置台(床)に水平に設置してください。強度が不足すると機器が転倒するおそれがあります。	
<b>アース工事をすること</b>	
●アース工事を確実に行ってください。アースが不完全な場合は、感電するおそれがあります。	
<b>電源は单相200Vを使用すること</b>	
●電源は单相200Vで専用の回路が必要です。 ※「深夜電力」契約で使用する場合、制御用(昼間電力用)電源が必要です。 制御用(昼間電力用)電源は、100V・200Vどちらでも使用できます。	
●電源ブレーカ・電線の太さなどは機器にあったものを使用してください。	
<b>周囲に引火性危険物や腐食性ガスの発生がないこと</b>	
●引火性危険物(灯油・ガス・ガソリン・シンナーなど)の取扱い場所、腐食性ガス(アンモニア・塩素・イオウ・酸類など)の発生する場所には設置しないでください。	
<b>漏電遮断器を設置すること</b>	
●制御用(昼間電力用)電源配線には、必ず漏電遮断器を設置してください。感電するおそれがあります。	
<b>漏電遮断器の作動確認をすること</b>	
●漏電遮断器が故障したまま使用すると、感電するおそれがあります。	

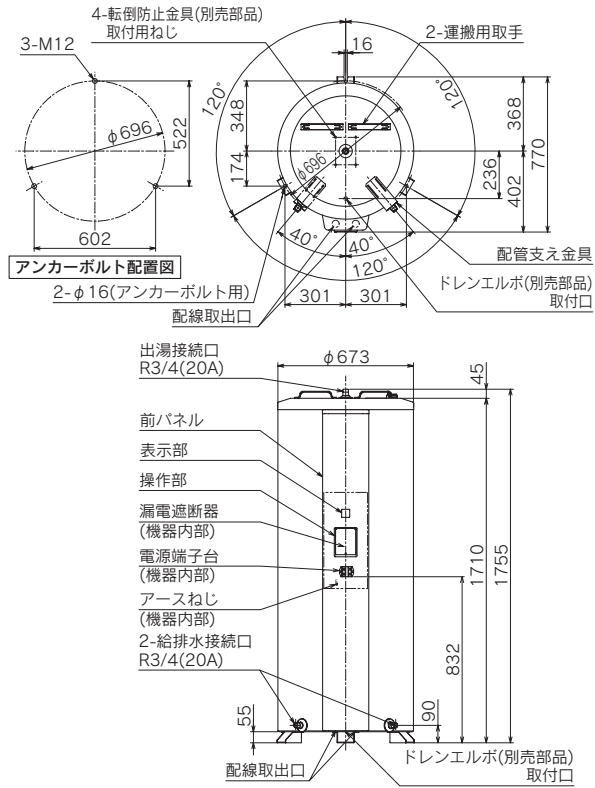
# 特に注意していただきたいこと

<b>⚠注意</b>	
<b>家庭用以外の使用禁止</b> ●この機器は家庭用です。家庭用以外に使用すると保証の対象外になります。	
<b>機器をアンカーボルトで固定すること</b> ●固定しないと機器が転倒し、けがや事故の原因になります。	
<b>屋内の排水・防水工事をする事(屋内設置の場合)</b> ●水漏れが起きたときに大きな被害になります。	
<b>階下給湯する場合は3m以内に設置し、負圧作動弁付逃し弁または真空破壊弁を取付けること</b> ●出湯配管を機器より下方に配管する場合は、必ず機器設置面から3m以内にしてください。 ●逃し弁が負圧作動弁付でない場合は真空破壊弁を取付けてください。取付けないと機器内が負圧になり破損するおそれがあります。	
<b>凍結予防工事を行うこと</b> ●冬期には配管が凍結して破損することがあります。	
<b>この機器は上水道用です</b> ●地下水・井戸水・温泉水を使用すると、水質によっては水漏れや故障の原因になります。この場合の修理は保証期間内でも有料となります。	
<b>雨や雪が降ったときに水たまりができて水につかるような場所に設置しないこと</b> ●感電するおそれがあります。	
<b>排水ホッパーを取付けること</b> ●出湯接続口に逃し弁と空気抜き弁を取付け、逃し弁の排水管には空気取入れのためのホッパーを必ず取付けてください。 ●ホッパーがないと空気を取入れることができず、機器内が負圧になり破損するおそれがあります。	
<b>排水管を排水溝に導くこと</b> ●排水管は必ず排水溝から5cm以上離して配管してください。 ●浄化槽や下水回路への落とし込みをする場合は、機器の排水配管に必ず排水トラップを設置してください。排水トラップがないと浄化槽などから下水ガスが逆流し、短期間で製品が著しく腐食して水漏れや故障を起こします。 ●排水配管工事は必ず行ってください。逃し弁から貯湯タンク内の膨張水が排水されます。排水配管工事を行わないと排水された膨張水により脚が水浸しになり、腐食して事故の原因になります。	

<b>お願い</b>	
<ul style="list-style-type: none"><li>●作業時は手袋などの保護具を着用してください。</li><li>●強風によって機器が転倒するおそれがありますので、風があたらない安定した場所で開こんしてください。</li><li>●転倒するおそれがありますので、機器の木枠底はアンカーボルトで固定するときにはずしてください。</li><li>●運搬するときは前パネルを上にして機器上面の運搬用取手および底面の脚を持って運搬してください。前パネルを下にすると変形するおそれがあります。</li><li>●工事をするときに機器上面には上がらないでください。変形します。</li><li>●高層住宅などへの吊り上げ運搬は梱包や本体を直接吊り上げないでください。</li><li>●この機器は太陽熱温水器とは接続できません。</li><li>●ガス機器から電気機器へ変更する際(ガス給湯器から電気温水器やエコキュートへの取替えなど)は、事前にガス事業者への連絡が必要になります。ガス事業者への連絡をせずに無断撤去することは法令により規制されておりますのでご注意ください。</li><li>●200V電源ブレーカはすべての作業が終わるまで絶対に「入」にしないでください。</li><li>●給水側の配管工事は水道局指定の水道工事業者に依頼してください。</li><li>●付属品は工事完了まで大切に保管してください。</li><li>●配管接続時は必ずスパナを2丁掛けして行ってください。 〔締付トルク目安15.0~18.9N・m(153~193kgf・cm)〕</li><li>●配管の保温工事は確実に行ってください。機器や配管が破損して水漏れや、やけどの原因になります。</li></ul>	

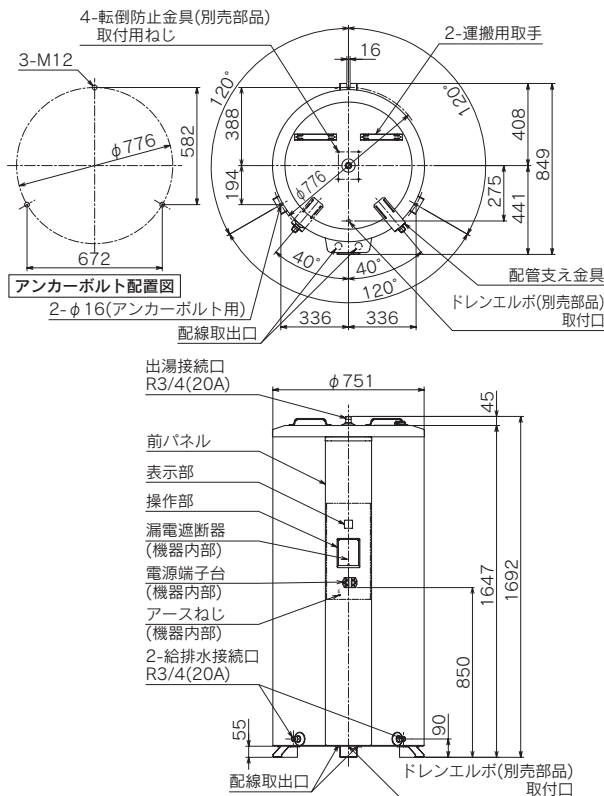
# 外形寸法図

## ● DO-379



※配管支え金具は左側対称位置に取付け可能です。(単位: mm)

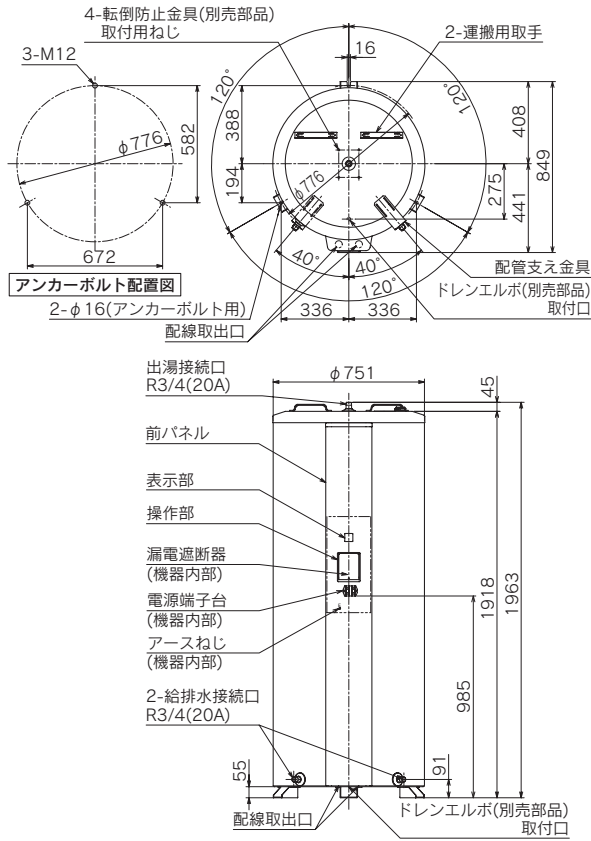
## ● DO-469



※配管支え金具は左側対称位置に取付け可能です。(単位: mm)

# 外形寸法図

## ● DO-559



※配管支え金具は左側対称位置に取付け可能です。(単位：mm)

# 設置工事

## 据付け場所の選定

- 機器は水道工事や電気工事などの付帯工事のできる場所に据付けてください。
- 据付け場所を選定するときは、次の事項をよく確認してからお客様と相談して決めてください。

### 雨水や雪がかからない場所

- 軒下など雨水や雪ができるだけかからない場所に設置してください。  
また、水たまりができて水につかるようなところには絶対に設置しないでください。
- 積雪地域に据付ける場合は雪を防ぐために小屋かけをしてください。

### 周囲に燃えやすいもの(引火性危険物など)がない場所

### 床面が不燃性の安定した場所

### 屋内の排水・防水工事ができる場所(屋内設置の場合)

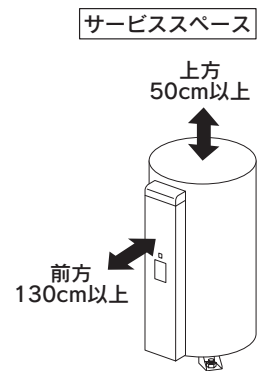
### お湯の使用頻度が多い場所の近く

### 設置後の保守や管理の行える場所

- 機器の周囲には点検や修理のためのサービススペースを確保してください。
- 機器が故障したときや交換時の搬入や搬出ができるように考慮してください。

### 通気の良い場所

- 屋内(機械室など)に設置する場合は通気口を設け、密閉室にしないでください。



## ■ 次のような場所には設置しないでください。

- 油・蒸気・油煙の発生する場所
- 腐食性ガス(アンモニア・塩素・イオウ・酸類など)の発生する場所
- 湿気の多い場所
- 人の出入りの多い場所、階段や避難口の近く
- 火気や引火物が近くにある場所

# 設置工事

## 基礎工事

●満水時の重量に充分耐える基礎工事を行ってください。

DO-379…約421kg

DO-469…約516kg

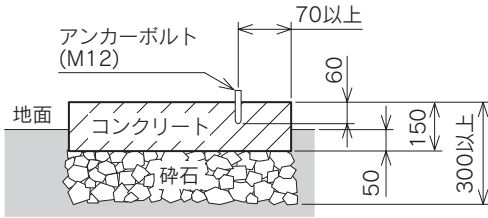
DO-559…約615kg

●基礎の大きさは右記を参照してください。

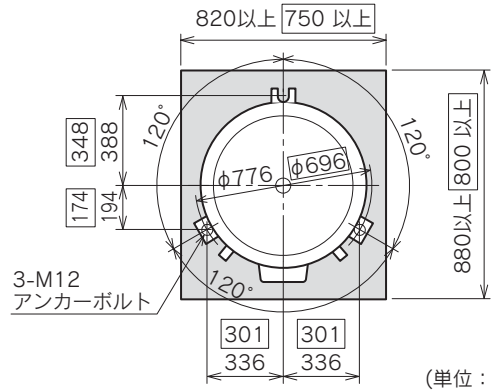
●基礎は水がたまらない構造にしてください。  
水がたまると錆の原因になります。

機種名	基礎の大きさ
DO-379	750以上 × 800以上
DO-469 DO-559	820以上 × 880以上

(単位：mm)



(単位：mm)

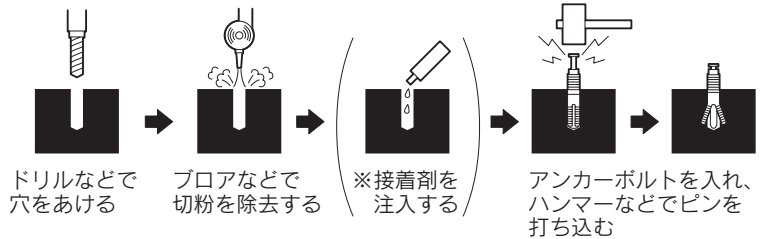


(単位：mm)

前面

□はDO-379です。

- アンカーボルトの下穴は右図を参照してください。
- アンカーボルトは引抜力が12kN以上になるように施工してください。



※接着系アンカーを使用するとより強い引抜力になります。

## 脚の固定

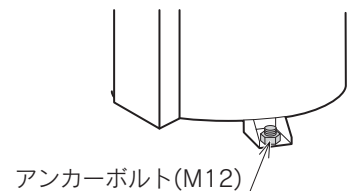
●転倒防止のため、脚(3箇所)を土台のしっかりした場所にアンカーボルト(M12)で固定してください。

呼び径	ドリル径	埋込み長さ
M12	12.7	60

(単位：mm)

### 後脚のU字部をアンカーボルトに差し込む

1. アンカーボルト(3箇所)を打ち込みます。(上図参照)
2. 後側のアンカーボルトがU字部の奥位置に着くまで押し込みます。
3. アンカーボルト(3箇所)で固定します。



## 転倒防止金具(別売部品)の取付け

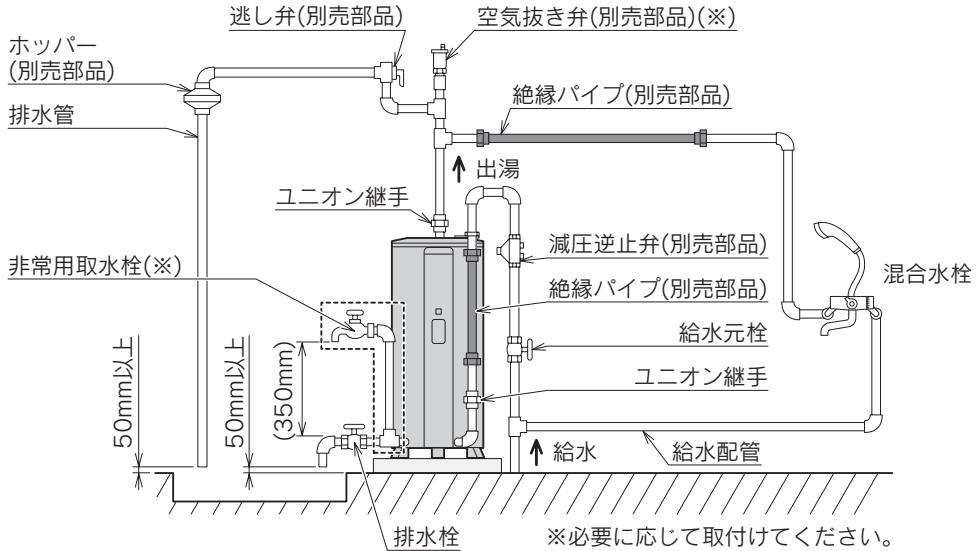
- 2階以上に設置する場合は、転倒防止金具で機器を固定してください。
- 転倒防止金具を取付ける場合は、転倒防止金具付属の工事説明書に従って取付けてください。



# 給水・出湯・排水配管工事

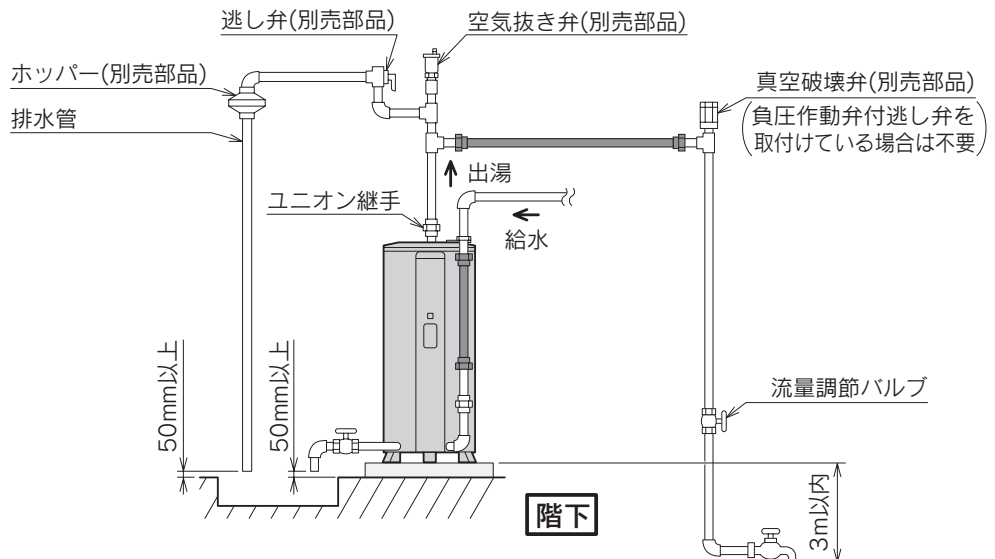
## 標準配管例

- 逃し弁は負圧作動弁付のものを推奨します。
- 逃し弁の排水管には空気取入れのためのホッパーを必ず取付けてください。



## 階下給湯

- 階下給湯は1箇所だけです。
- 出湯配管の途中に流量調節バルブを取付けてください。
- 混合水栓と機器の設置面の高低差は、3m以内にしてください。  
3mを超えると、空気の混ざったお湯が出て飛び散ることがあり危険です。
- 空気の混ざったお湯が出る場合は機器への給水量が不足しています。流量調節バルブで給水量と出湯量のバランスを調節してください。
- 逃し弁は負圧作動弁付のものを推奨します。
- 逃し弁が負圧作動弁付でない場合は必ず真空破壊弁を取付けてください。
- 逃し弁の排水管には空気取入れのためのホッパーを必ず取付けてください。



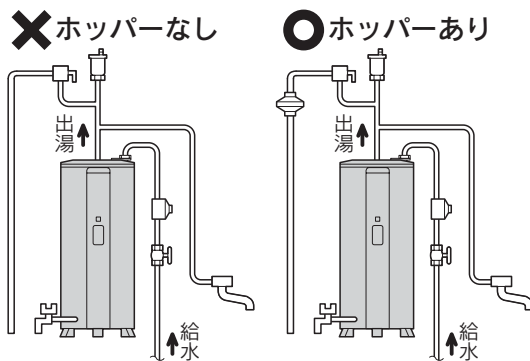
# 給水・出湯・排水配管工事

## ⚠注意

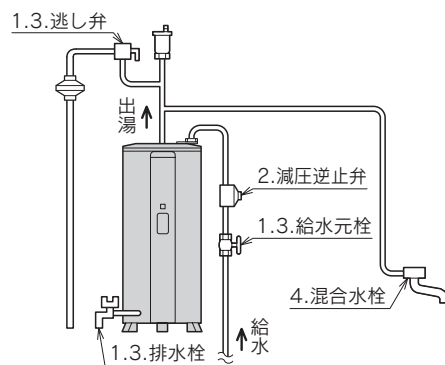
- 配管工事は各市町村水道局(課)の指定工事店に依頼し、所轄の水道局(課)の規定に従ってください。
- 配管材料やシール材などは各市町村水道局(課)承認のものを使用してください。
- 配管はすべて断熱材で保温してください。
- 配管の保温は水漏れ確認後に行ってください。
- この機器は上水道用です。地下水・井戸水・温泉水を使用すると、水質によっては水漏れや故障の原因になります。この場合の修理は保証期間内でも有料となります。

## 配管上の注意

- 上水道に直結する場合は、水道局(課)の認可が必要です。詳しくは所轄の水道局(課)に確認してください。
- 混合水栓はその混合水栓の仕様に従って接続してください。
- やけど防止のため混合水栓はサーモスタット付混合水栓の使用をおすすめします。
- 逃し弁は負圧作動弁付のものを推奨します。
- 通電中は逃し弁から貯湯タンク内の膨張水が出ますので、逃し弁の排水管は必ず排水溝まで導いてください。
- 逃し弁の排水管には空気取入れのためのホッパーを必ず取付けてください。
- 給湯加圧ポンプを使用する場合または階下へ給湯する場合、逃し弁が負圧作動弁付でない場合は必ず真空破壊弁を取付けてください。
- 配管材料は切断後、必ずバリ取りを行ってから使用してください。また接続する前には必ず水を流して配管内のゴミを排出してください。
- 配管は取りはずしができるような部材を使用して接続してください。
- 銅管などで金属配管をする場合は絶縁パイプ(別売部品)を取付けてください。絶縁パイプの長さは給水側は0.5m以上、出湯側は1m以上必要です。
- 耐熱塩ビ管や架橋ポリエチレン管などの樹脂管を使用する場合は、絶縁パイプは不要です。
- 架橋ポリエチレン管が直射日光にあたらぬように保温工事を行い、保温材や遮熱管に耐候性がない場合はさらに耐候性のある遮光テープを巻いてください。架橋ポリエチレン管に直射日光があたると劣化して水漏れの原因になります。
- 耐熱塩ビ管(HT管など)を接着接続した場合は、接着剤が減圧逆止弁の水フィルタなどへ付着しないよう硬化後通水してください。使用する接着剤の種類・使用量・養生時間などは接着剤メーカーの説明書に従ってください。
- 接着剤やフラックスが貯湯タンク内に入り、お湯から悪臭が発生した場合は、以下の処置を行ってください。**



1. 給水元栓を閉めて逃し弁のレバーを上げてください。  
排水栓を開けて貯湯タンク内の水をすべて抜いてください。
2. 減圧逆止弁の水フィルタを掃除、または交換してください。
3. 排水栓を閉めて給水元栓を開け、貯湯タンクが満水になってから逃し弁のレバーを下げてください。
4. 配管内を洗浄するために、各混合水栓から10分程度水を流してください。



## 給水配管

- 給水接続口の近くには必ず給水元栓を取付けてください。
- 機器の底面より下にドレン栓を取付けて水抜きができるようにしてください。(長期外出時の凍結防止として配管内の水を抜くため。)
- 配管支え金具で固定してください。

## 出湯配管

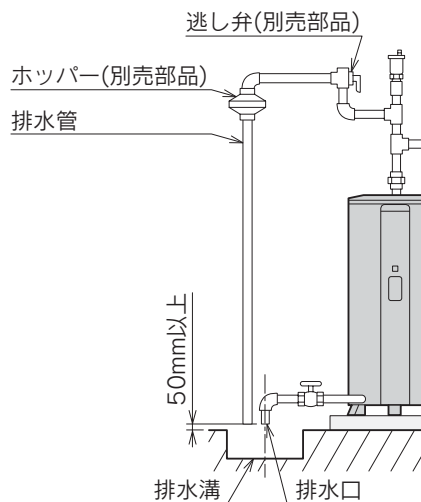
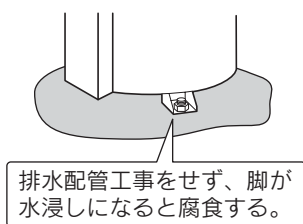
- 機器は使用頻度が高い場所の近くに取付け、出湯配管はできるだけ短くしてください。
- 逃し弁は当社純正部品を使用してください。
- 逃し弁の排水配管に空気取入れのためのホッパーを必ず取付けて排水溝に導いてください。途中には弁類を取付けないでください。  
また、凍結のおそれがある地域では、逃し弁を給水側にも取付けることをおすすめします。
- お湯の飛散防止のため、別売部品の空気抜き弁を取付けることをおすすめします。
- 配管は耐食性のあるステンレス管・銅管・架橋ポリエチレン管などを使用してください。
- 逆止弁付混合水栓を使用してください。  
**特に浴室ではやけど防止のためサーモスタット付混合水栓などを使用してください。**  
サーモスタット付混合水栓を使用する場合は、構造により出湯量が極端に少なくなる場合がありますので、混合水栓の最低必要圧力やシャワーヘッドなどの仕様を確認して選定してください。
- 手元ストップおよびマッサージシャワーを使用すると出湯量が少なくなります。
- 継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管にならないようにしてください。

## 排水配管

### ⚠注意

- **排水配管工事は必ず行ってください。機器からは、沸き上げ中の膨張水が排水されます。**  
排水配管工を行わないと排水された膨張水により脚が水浸しになり、腐食して事故の原因になります。
- 排水管は必ず排水溝に導いてください。

### ✕ 腐食が発生する 誤った施工例



- 排水管・排水口と排水溝との間隔は50mm以上必要です。
- 排水用の管材は塩化ビニル管(VP管またはVU管)を使用してください。
- 排水される水(湯)が排水溝からこぼれ出ないようにしてください。
- 排水口と排水溝の中心位置を確実に合わせてください。  
中心位置がずれていると、排水時に水が飛び散って床面を濡らすおそれがあります。

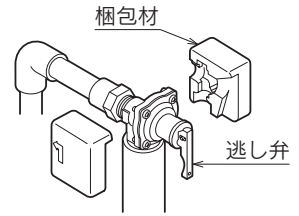
## 地震などの災害時に備えた配管工事

- 必要に応じて、非常用取水栓を排水栓手前の上部に取付けてください。(9ページ「標準配管例」参照)  
断水時や万一の地震などの災害時に、貯湯タンク内の水を生活用水(飲用は不可)として利用できます。
- お客様に非常用取水栓であることを説明してください。

# 給水・出湯・排水配管工事

## 配管の保温工事

- 配管はすべて断熱材で保温してください。
- 配管の保温は水漏れテスト後に行ってください。
- 逃し弁は梱包材(発泡スチロール)を使用して保温してください。
- 地中配管や屋外など雨露のかかる保温箇所や保温材の端面は防水処理を行ってください。

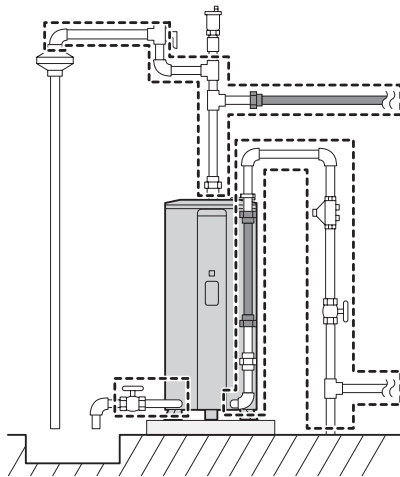


## 配管の凍結予防工事

- 保温工事をしていても風雪にさらされる場所に設置していたり周囲の温度が0℃以下になる場合は配管が凍結します。  
凍結により機器や配管が破損しないよう、適切な凍結予防対策(凍結予防ヒータの使用など)を行ってください。
- 逃し弁および逃し弁の配管が凍結すると、貯湯タンクの圧力が上昇し水漏れの原因になります。

### 凍結予防ヒータを使用する場合

- 1.市販の凍結予防ヒータを配管やバルブ類に巻きます。  
サーモスタット部は必ず配管に密着させて取付けてください。
- 2.凍結予防ヒータは何本も使用しますので適当な位置にコンセントを設けてください。
  - 凍結予防対策とその操作方法をお客様に十分に説明してください。
  - 絶対に配管に水がない状態で凍結予防ヒータに通電しないでください。



凍結予防ヒータは  
約10cm間隔で  
配管に巻いてください。

長期間使用しない場合の凍結予防方法  
をお客様に十分に説明してください。  
(取扱説明書参照)

---部に保温および凍結予防対策を行ってください。

# リモコンの接続

- 機器とリモコンの接続は小勢力回路の工事に該当し、電気工事士の資格がなくてもできますが、電気設備に関する技術基準に従って工事を行ってください。
- リモコンコードは200V電源ブレーカを「切」にした状態で接続してください。  
また、制御用(昼間電力用)電源配線を接続している場合は、制御用漏電遮断器も「切」にしてください。

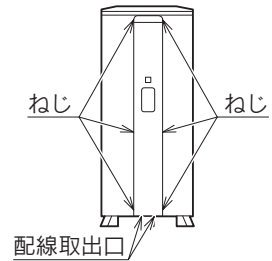
リモコンの取付けは、リモコンに付属されている「工事説明書」をご覧ください。

機器との接続（「電気配線工事」の項も参照してください。）

## 警告

- リモコンコードが機器内のヒータ端子に接触しないように配線してください。
- 余ったリモコンコードは機器外でまとめ、機器内に入れないでください。  
また、リモコンコードを切断して使用するときは、樹脂スリーブ付のY形端子を使用してください。

- 1.前パネルのねじ(6本)をはずして前パネルをはずします。
- 2.リモコンコードを配線取出口から通し、リモコン端子台に導きます。
- 3.リモコンコードをリモコン端子台に接続します。  
リモコンコードは無極性ですので、どちらに接続してもかまいません。
- 4.リモコンコードをコードクリップでしっかりと固定します。



- リモコンコードがヒータ端子に接触しないように注意してください。
- リモコンコードは機器内部でたるませないでください。
- 配線取出口のゴムブッシュは虫の侵入を防ぐため、リモコンコード径より小さい丸穴をあけてリモコンコードを通してください。

# 電気配線工事

電源が200Vであることを確認してください。

## 警告

- 電源配線は束ねたまま使用しないでください。  
また、余った電源配線やアース線は機器内に入れないでください。火災のおそれがあります。
- 電源配線が機器内のヒータ端子に接触しないように配線してください。

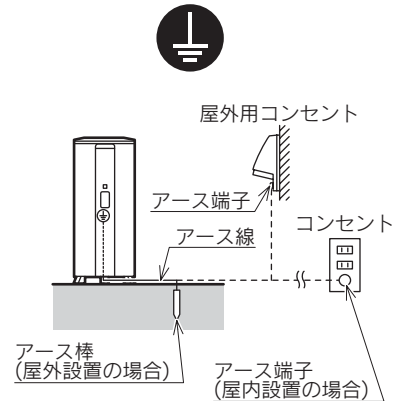
## 電気配線上の注意

- 電気配線工事は指定工事業者に依頼してください。
- 電気設備に関する技術基準および内線規程に基づいて施工してください。
- 絶対に貯湯タンクに給水する前に漏電遮断器のレバーを「ON」にしないでください。
- 電力会社への申請は適切に行ってください。
- 「深夜電力」契約で使用する場合は、専用タイムスイッチは深夜電力用を使用してください。  
深夜電力の時間帯は電力会社によって異なります。第二深夜電力(5時間通電)では使用できません。

# 電気配線工事

## 接地(アース)

- アース工事を確実に行ってください。  
アースが不完全な場合は、感電するおそれがあります。
- 電気設備に関する技術基準および内線規程に基づいて、D種接地工事を行ってください。(接地抵抗100Ω以下)
- 漏電遮断器を入れた他の製品の保護アース回路には接続しないでください。
- アース端子の位置は次ページの図で確認してください。
- アース線がヒータ端子に接触しないように注意してください。
- アース棒1本で規定の抵抗値にならないときは、2~3本のアース棒を使用して、約2m間隔に並列に接続し、規定の値にしてください。
- アース棒は地中30cm以上の深さに打ち込み、地面に出ないようにしてください。
- アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。



### 埋設に適する場所

- 湿気の多い場所

### 埋設を避ける場所

- 地下埋設物のある場所(ガス管・水道管・地下ケーブル・引込管など)
- 避雷針や電話のアースから2m以内
- ガスや酸などで腐食するおそれがある場所
- 人通りの多い場所

## 使用電源

- 電源は単相200Vです。専用の電源回路を設けてください。
- 「深夜電力」契約時の制御用(昼間電力用)電源配線は、100V・200Vどちらでも使用できます。
- 「深夜電力」契約でリモコンを使用しない場合は、制御基板の切換スイッチの設定が必要です。  
「試運転」(17~20ページ)を参照して試運転時に設定してください。

		200V電源ブレーカ	電源配線の太さ	アース線
「時間帯別電灯」契約	DO-379	30A	5.5mm <sup>2</sup> またはφ2.6mm	2.0mm <sup>2</sup> 以上またはφ1.6mm以上
	DO-469	40A	8.0mm <sup>2</sup> またはφ3.2mm	3.5mm <sup>2</sup> 以上またはφ2.0mm以上
	DO-559	50A	14mm <sup>2</sup>	3.5mm <sup>2</sup> 以上またはφ2.0mm以上
「深夜電力」契約 沸き上げヒータ用	DO-379	30A	5.5mm <sup>2</sup> またはφ2.6mm	2.0mm <sup>2</sup> 以上またはφ1.6mm以上
	DO-469	40A	8.0mm <sup>2</sup> またはφ3.2mm	3.5mm <sup>2</sup> 以上またはφ2.0mm以上
	DO-559	50A	14mm <sup>2</sup>	3.5mm <sup>2</sup> 以上またはφ2.0mm以上
「深夜電力」契約 制御用(昼間電力用) リモコンを接続する場合のみ		15Aまたは20A	2.0mm <sup>2</sup> またはφ1.6mm	3.5mm <sup>2</sup> 以上またはφ2.0mm以上

- この機器を「時間帯別電灯」契約で使用する場合は、別売部品のリモコンが必要です。  
また「深夜電力」契約で、制御用(昼間電力用)電源配線を接続することで、リモコンの使用が可能になります。

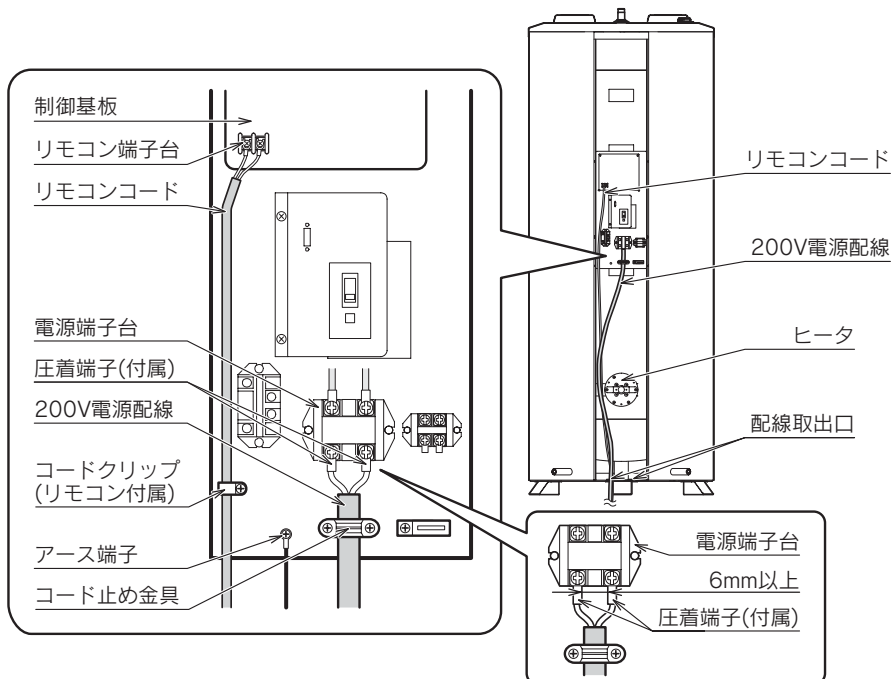
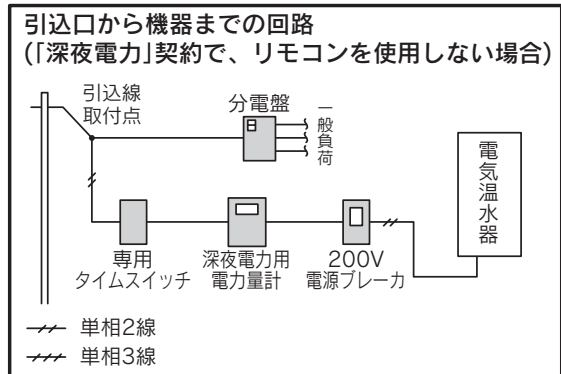
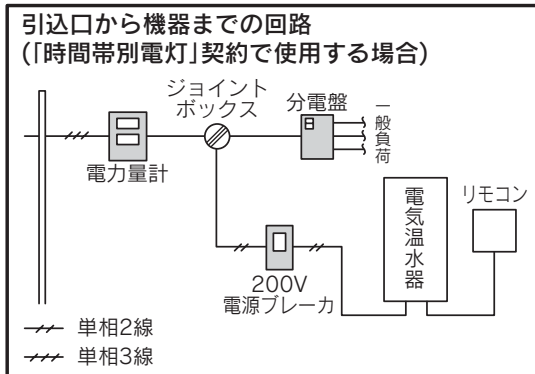
電力契約	リモコン有無	制御用(昼間電力用)電源配線
時間帯別電灯	必須	不要
深夜電力	有り	要
	無し	不要

## 電源の接続

「時間帯別電灯」契約で使用する場合

「深夜電力」契約でリモコンを使用しない場合

1. 200V 電源配線を配線取出口から通し、電源端子台に導きます。
2. 電源端子台の下側に付属している圧着端子をはずし、200V 電源配線にカシメ工具でかした後、電源端子台に確実に固定します。
3. コード止め金具で電源配線を確実に固定します。
4. はずしたねじ(6本)で前パネルを取付けます。



- 電源配線がヒータ端子に接触しないように注意してください。
- 電源配線は機器内部でたるませないでください。  
電源配線を電源端子台に固定するときは端子間を6mm以上離してください。
- 配線取出口のゴムブッシュは虫の侵入を防ぐため、電源配線径より小さい丸穴をあけて電源配線を通してください。

# 電気配線工事

「深夜電力」契約でリモコンを使用する場合

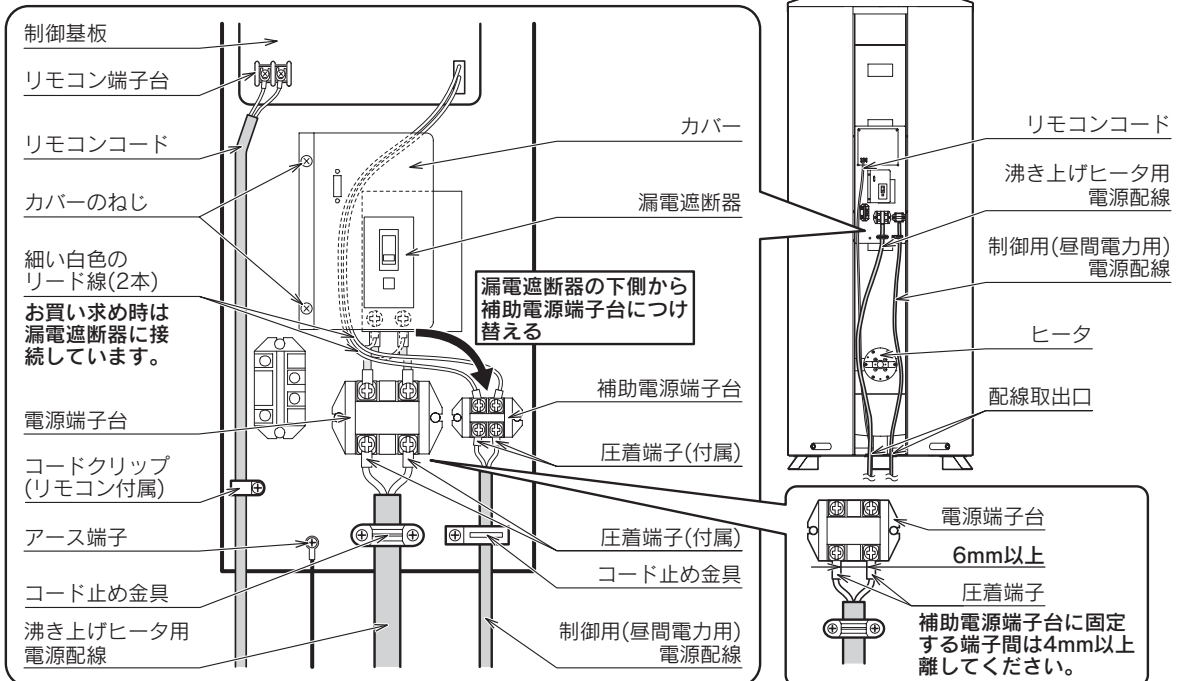
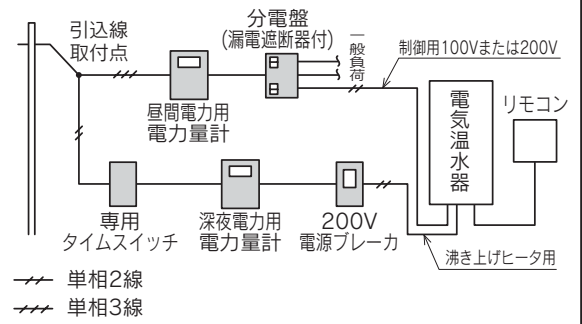
## 警告

●制御用(昼間電力用)電源配線には、必ず漏電遮断器を設置してください。感電するおそれがあります。

### ●内部配線の変更が必要です。

- 1.電源ブレーカを「切」にします。
- 2.カバーのねじ(2本)をはずして、カバーをはずします。
- 3.漏電遮断器の下側に接続してある細い白色のリード線(2本)を漏電遮断器からはずし、補助電源端子台に確実に固定します。  
漏電遮断器の下側のヒータリード線(白・赤)は固定ねじで元通りに確実に固定します。
- 4.はずしたねじ(2本)でカバーを取付けます。
- 5.制御用(昼間電力用)電源配線を配線取出口から通し、補助電源端子台に導きます。
- 6.補助電源端子台の下側に付属している圧着端子をはずし、制御用(昼間電力用)電源配線にカシメ工具でかした後、補助電源端子台に確実に固定します。
- 7.沸き上げヒータ用電源配線を配線取出口から通し、電源端子台に導きます。
- 8.電源端子台の下側に付属している圧着端子をはずし、沸き上げヒータ用電源配線にカシメ工具でかした後、電源端子台に確実に固定します。
- 9.コード止め金具で電源配線を確実に固定します。
- 10.はずしたねじ(6本)で前パネルを取付けます。

引込口から機器までの回路



- 電源配線がヒータ端子に接触しないように注意してください。
- 電源配線は機器内部でたるませないでください。
- 沸き上げヒータ用電源配線を電源端子台に固定するときは、端子間を6mm以上離してください。  
制御用(昼間電力用)電源配線を補助電源端子台に固定するときは、端子間を4mm以上離してください。
- 制御用(昼間電力用)電源配線は、100V・200Vどちらでも使用できます。
- 配線取出口のゴムブッシュは虫の侵入を防ぐため、電源配線径より小さい丸穴をあけて電源配線を通してください。



# 試運転

## ⚠️注意

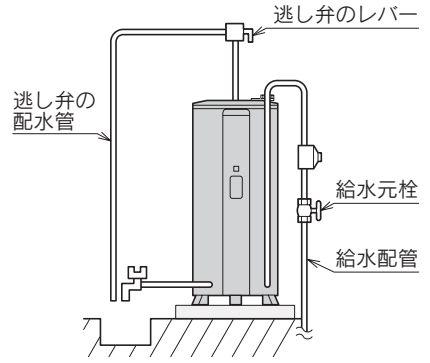
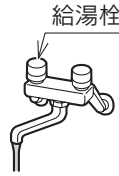
- 電源が200Vであることを確認してください。
- 通電は貯湯タンクが満水(逃し弁の排水管から連続的に水が出ること)になってから行ってください。満水でない状態で通電すると故障するおそれがあります。

### 1 貯湯タンクを満水にする

1. 逃し弁のレバーを上げ、給水元栓を開けます。
2. 逃し弁の排水管から連続的に水が出ることを確認します。水が出るまで約20～40分かかります。

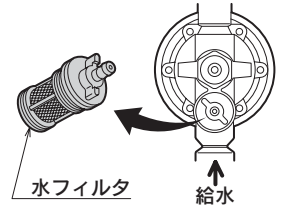
逃し弁の排水管から連続的に水が出れば貯湯タンクは満水です。

3. 逃し弁のレバーを下げます。
4. 混合水栓の給湯栓を開けて水を流します。(サーモスタット付混合水栓の場合は40℃に設定して水を流します。)
5. 給湯栓を閉めます。
6. 配管接続部から水漏れがないことを確認します。



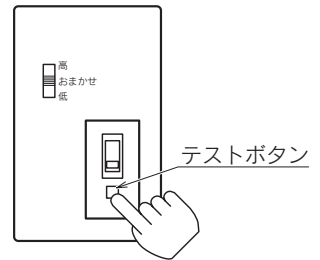
### 2 減圧逆止弁の水フィルタの掃除

1. 給水元栓を閉めます。
2. 逃し弁のレバーをゆっくり上げます。
3. 減圧逆止弁の水フィルタを取りはずして掃除し、パッキン部をきれいにふいて、元通りに取付けます。パッキン部に傷をつけないように注意してください。
4. 給水元栓を開け、減圧逆止弁の水フィルタから水漏れがないことを確認します。



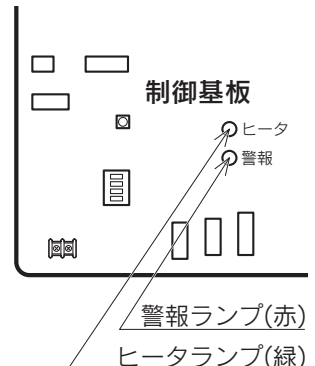
### 3 電源投入

- 「深夜電力」契約の場合は、電力会社の了解を得て専用タイムスイッチを通電状態にしてください。
1. 200V電源ブレーカを「入」にします。
  2. 操作部のふたを開き、漏電遮断器のレバーを「ON」にします。
  3. 漏電遮断器のテストボタンを押して作動確認をします。「ON」になっている漏電遮断器のレバーが「OFF」になると正常です。
  4. 正常であれば漏電遮断器のレバーを「ON」にして、操作部のふたを閉じます。



### 4 通電確認(リモコンを接続していない場合のみ)

動作	制御基板ランプ表示		説明
	ヒータランプ(緑)	警報ランプ(赤)	
200V電源ブレーカ「入」 漏電遮断器「ON」	点滅※1 (初回電源投入時)	消灯	リモコン有無判定中
約1分後	消灯	↓	
200V電源ブレーカ「切」	↓	↓	
200V電源ブレーカ「入」	点灯	点滅※2	ヒータ通電開始
電力量計が回転していることを確認			



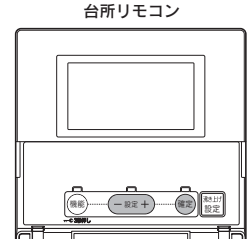
- ※1 ヒータランプ(緑)が点滅から消灯に変わる前に別の動作を行うと試運転が正常に行われなことがあります。消灯を確認した後に次の動作を行ってください。
- ※2 警報ランプ(赤)は、正常にお湯が沸き上がると点滅から消灯に変わります。

# 試運転

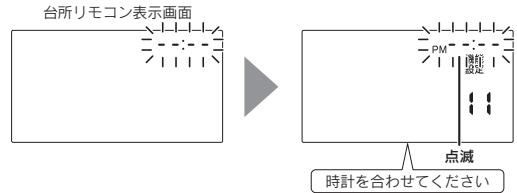
## 5 現在時刻と電力制度の設定

### リモコンを接続している場合

- 現在時刻の設定は台所リモコンで行います。
- 現在時刻を設定しないと操作ができません。
- 現在時刻が設定されていない時は時刻表示部に「--:--」が点滅します。
- この機器は申請により、通電制御型として電気料金の割引が適用されます。
- 契約している電力制度の内容については、各電力会社へお問い合わせください。



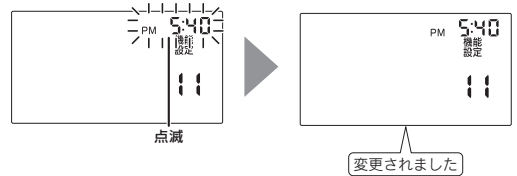
1. リモコンのふたを開き、いずれかのスイッチを押して時刻設定を開始します。



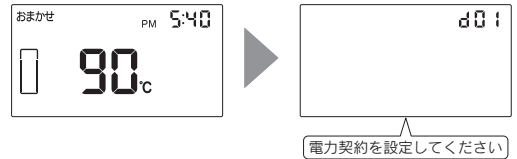
2. (設定+) で現在時刻を設定します。

1回ずつ押すと1分、押し続けると10分単位で変わります。(AMは午前、PMは午後です)

(確定) を押すと現在時刻が点滅から点灯になり、現在時刻が設定されます。もう一度(確定) を押して、通常の表示に戻します。



3. (定+) を約5秒間押し続けます。現在の電力契約が表示されます。お買い求め時は「d01」に設定されています。



4. (定+) を押して契約している電力制度を選択し、(確定) を押します。(19ページ参照)  
「>d01~d05、h01~h08、n99」の順に切り替わります。(確定) を押すと電力制度が設定され、通常の表示に戻ります。リモコンのふたを閉じます。



### 電力制度を確認したいときは

(定+) を約5秒間押し続けてください。表示画面に電力制度を表示します。約30秒間操作しない、またはふたを閉じることで通常の表示に戻ります。

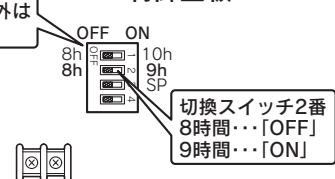
- 現在時刻が合っていないと昼夜の判断が正しく行われず、電気料金が割高になることがあります。
- 停電した後は現在時刻が合っていることを確認してください。
- 途中で設定をやめる場合はふたを閉じてください。通常の表示に戻ります。

### リモコンを接続していない場合

- 「深夜電力」契約の場合は、専用タイムスイッチの現在時刻をあわせてください。
- 電力制度は制御基板の切換スイッチ2番で設定します。
  - 深夜時間が8時間の場合・・・[8h] (OFF)
  - 深夜時間が9時間の場合・・・[9h] (ON)
- ・お買い求め時は8時間に設定されています。
- ・切換スイッチ2番以外はすべて「OFF」です。

切換スイッチ2番以外はすべて「OFF」です。

### 制御基板



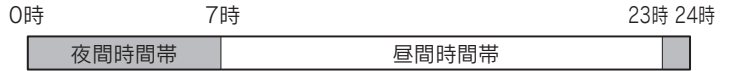
現在時刻、電力制度を変更・修正する場合は、取扱説明書に従ってください。

## ■ 電力制度の内容

### 「時間帯別電灯」契約で使用する場合

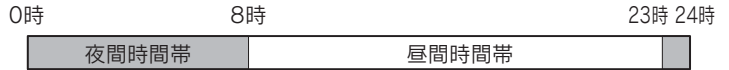
#### 「d01」表示

北海道電力…ドリーム8B  
 東北電力…やりくりナイト8  
 東京電力…おトクなナイト8  
 北陸電力…エルフナイト8  
 中部電力…タイムプラン  
 四国電力…電化Deナイト  
 関西電力・四国電力…時間帯別電灯  
 九州電力・沖縄電力…(8時間型)



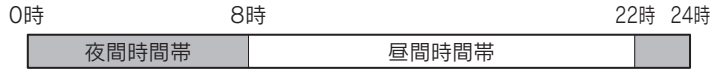
#### 「d02」表示

中国電力…エコノミーナイト  
 (時間帯別電灯)



#### 「d03」表示

東北電力…やりくりナイト10・やりくりナイトS  
 東京電力…おトクなナイト10  
 北陸電力…エルフナイト10  
 九州電力…よかナイト10



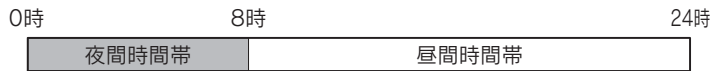
#### 「d04」表示

北海道電力…ドリーム8A



#### 「d05」表示

北海道電力…ドリーム8C



#### 「h01」表示

東京電力…電化上手  
 関西電力…はびeタイム  
 沖縄電力…Eeらいふ



#### 「h02」表示

中部電力…Eライフプラン



#### 「h03」表示

中国電力…ファミリータイム



#### 「h04」表示

北陸電力…エルフナイト10プラス  
 九州電力…電化Deナイト



#### 「h05」表示

北海道電力…ドリーム8エコA



#### 「h06」表示

北海道電力…ドリーム8エコB



#### 「h07」表示

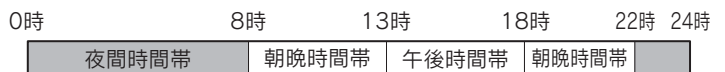
北海道電力…ドリーム8エコC



ドリーム8エコのピーク時間は冬期間(12月~3月)のみです。その他の期間(4月~11月)はピーク時間の設定はありません。

#### 「h08」表示

北海道電力…eタイム3



#### 「n99」表示

予備



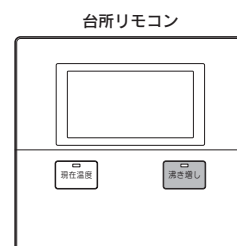
### 「深夜電力」契約で使用する場合

- ・中国電力は「d02」に設定してください。
- ・中国電力以外の場合は「d01」に設定してください。

# 試運転

## 6 沸き上げ確認(リモコンを接続している場合のみ)

1. 台所リモコンの **沸き増し** を押してください。  
沸き増しランプが点灯し、沸き上げを開始します。
  2. 電力量計が回転していることを確認します。
  3. 台所リモコンの **沸き増し** を押してください。  
沸き増しランプが消灯して、沸き上げを停止します。
- 「深夜電力」契約の場合は、専用タイムスイッチの現在時刻をあわせてください。



## 試運転終了後

### ⚠注意

- 試運転終了後に、お客様が使用するまでに期間があり冬期をはさむ可能性がある場合は、凍結して機器が破損することを予防するため、取扱説明書の「長期間使用しない場合」に従って水を抜いてください。

#### 試運転後、200V電源ブレーカを「入」のままにする場合

- 試運転終了後、設置当日にお湯を使用する場合は沸き増しスイッチで「満タン[12時間]」(取扱説明書参照)を選択し、沸き上げ運転を継続してください。  
ただし「深夜電力」契約の場合、設置当日はお湯を使用できません。

#### 試運転後、お客様への引き渡しまでの期間が長く、200V電源ブレーカを「切」にする場合

##### 機器の水を抜く場合

- 冬期をはさむ可能性がある場合は、機器や配管内に残った水が凍結して機器や配管が破損することがありますので、取扱説明書の「長期間使用しない場合」に従って水を抜いてください。
- 後日お客様へ引き渡すときに、再度「試運転」(17～20ページ参照)を行い、そのまま沸き上げ運転を継続してください。

##### 機器の水を抜かない場合(凍結のおそれがない場合)

- 後日お客様へ引き渡すときに、200V電源ブレーカを「入」にし、「試運転」(17～20ページ参照)を行ってください。

# エラーコードについて

## エラーコード(警報)表示

- 表示部の警報ランプ(赤)の点滅でエラー(警報)をお知らせします。  
リモコンを接続している場合は、リモコンの表示画面にエラーコード(警報)を表示します。
- エラーコードが表示された場合は下記に従って処置を行ってください。

エラーコード	表示部警報ランプ(赤)	警報解除方法	原因
000	—	—	停電復帰検知
740	6回点滅	1	リモコン通信異常
760	6回点滅	2	リモコン通信異常
H16	5回点滅	4	温度過昇防止器作動
H17	4回点滅	4	温度過昇防止器作動 ヒータリレー異常
H31	3回点滅	3	残湯量サーミスタ1異常
H32	3回点滅	3	残湯量サーミスタ2異常
H33	3回点滅	3	残湯量サーミスタ3異常
H34	3回点滅	3	残湯量サーミスタ4異常
H35	3回点滅	3	残湯量サーミスタ5異常
なし	2回点滅	5	沸き上げ未完了
なし	1回点滅	5	停電検知

## エラー発生時の処置

- エラーが発生した場合は、配線図に従ってエラーの原因を除去し、警報解除します。  
(配線図は機器の前パネル内面に貼付されている袋に入っています。)

### 警報解除の方法

解除方法1…漏電遮断器のレバーを3秒以上「OFF」にした後、再度「ON」にします。

それでも解除できない場合は、制御基板上のリセットスイッチを押します。

制御基板上のリセットスイッチを押すと、現在時刻が消去されますので、再度時刻設定を行ってください。

解除方法2…リモコンのふたを開き、確定スイッチを10秒間押し続けます。

解除方法3…正常温度検出で自動復帰します。

解除方法4…漏電遮断器のレバーを「OFF」にした後、温度過昇防止器の復帰ボタンを押し、漏電遮断器のレバーを「ON」にしてから制御基板上のリセットスイッチを押します。

制御基板上のリセットスイッチを押すと、現在時刻が消去されますので、再度時刻設定を行ってください。

解除方法5…正常にお湯が沸き上がると自動的に解除されます。または制御基板上のリセットスイッチを押します。制御基板上のリセットスイッチを押すと、現在時刻が消去されますので、再度時刻設定を行ってください。

## お客様への説明

- 取扱説明書に従って取扱方法をお客様に説明してください。
- 保証書に必ず必要事項をご記入のうえお客様にお渡しください。  
また、取扱説明書に従って、「アフターサービス」について説明してください。
- 設置工事終了後、工事説明書は取扱説明書・保証書と共にお客様にお渡しください。

# チェックリスト

●試運転終了後、次の項目を確認してください。

確認事項		チェック欄
据付け状態および据付け工事	据付け床面の排水・防水工事はしてありますか	
	機器はしっかり水平に据付けられていますか	
	機器の脚はアンカーボルトで固定されていますか	
	機器の満水時の重量に充分耐える工事がされていますか	
	機器の据付け所要スペースは確保されていますか	
	周囲に引火性危険物や腐食性ガスの発生がありませんか	
	排水栓を閉めましたか 給水元栓は開けていますか	
	給水管・出湯配管・機器内・その他の配管接続部からの水漏れはありませんか	
	外装に傷・変形・汚れなどはありませんか	
配管工事	逃し弁のレバーをゆっくり開閉し、放水や止水が正常にできますか	
	給水元栓は適切な位置に取付けられていますか	
	排水管・排水口と排水溝の間隔は50mm以上ありますか	
	保温工事は適切に行われていますか	
	凍結予防工事は適切に行われていますか	
電気工事	減圧逆止弁の水フィルタは点検しましたか	
	漏電遮断器の作動確認を行いましたか	
	アース工事は確実に行われていますか	
	連絡配線およびリモコンコードは正しく接続されていますか	
	200V電源端子の締付けは確実に行われていますか	
試運転	電源が200Vであることを確認しましたか (「深夜電力」契約の制御用電源は200Vまたは100V)	
その他	試運転は問題・異常なく終了しましたか	
	シャワーからの流量は充分ですか	
	逃し弁のレバーを上げ排水栓を開けたときに、ホッパーから排水があふれることがないですか	
	点検口や操作部は確実に閉じましたか	
	試運転終了後、お客様への引き渡しまでの期間に、冬期をはさむ場合は機器内の水を抜きましたか	
	取扱説明書に従って取扱方法をお客様に説明しましたか	
	保証書に必要な事項を記入して、お客様に販売店(工事店)の連絡先を伝えましたか	
取扱説明書・保証書・工事説明書をお客様にお渡しください		

試運転実施日： 年 月 日

様

私が責任を持って試運転を行いました。



住宅設備機器総合メーカー  
株式会社 長府製作所



---

●本社 〒752-8555 山口県下関市長府扇町2-1 ☎(083)248-1111  
FAX(083)248-1906